



2020年8月21日

各 位

会社名 株式会社 マルマエ  
代表者名 代表取締役社長 前田 俊一  
(コード番号: 6264 東証第一部)  
問合せ先 管理本部長 下舞 毅  
(TEL. 0996-68-1140)

### 中期事業計画の修正に関するお知らせ

当社は、2020年8月21日の取締役会において、2018年10月10日付で公表した中期事業計画「Innovation 2021」(2019年8月期～2021年8月期)について、その期間を1年間延長すると共に、数値目標を下記の通り修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

#### 1. 修正内容

		修正前	修正後
中期事業計画名称		Innovation 2021	Innovation 2022
最終年度		2021年8月期	2022年8月期
数値目標	売上高	80億円	70億円
	営業益	24億円	20億円
ROIC	資産ベース	20%	18%
	負債ベース	15%	14%
配当性向		配当性向 30%以上目標 最低配当額 年間 10円※	修正なし

※ただし、最終損益が赤字となる場合は見直しを行う

#### 2. 修正の理由

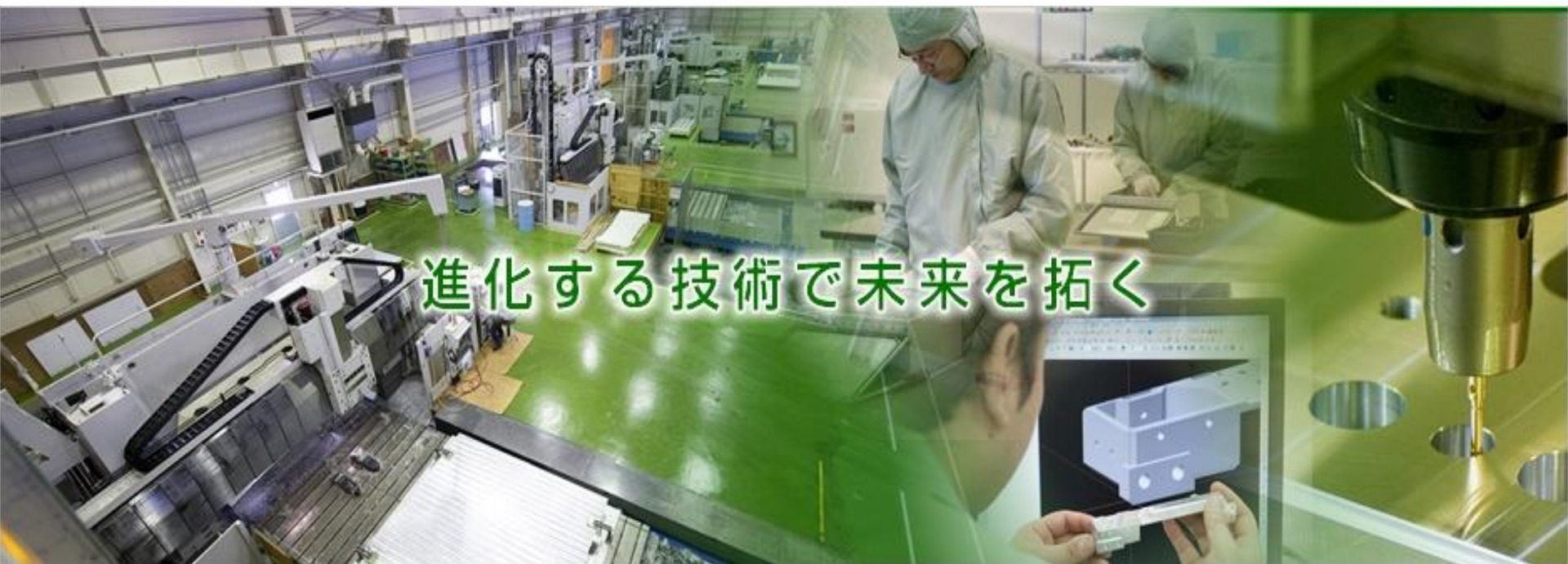
当社は、2019年8月期をスタートとする中期事業計画を策定し、掲げた戦略に基づき事業計画の遂行に取り組んでまいりました。しかしながら、2018年10月の中期事業計画策定時点で4%の成長を見込んでいた2019年度日本製半導体製造装置市場が、実績ではマイナス7.8%と減退するなど大きな乖離が生じました。その後半導体製造装置市場の回復は見られるものの、中期事業計画策定時点と現時点における市場見通しの乖離は解消されず、目標達成は困難と判断いたしました。そこで、計画期間を1年間延長し、具体性のある行動計画を策定した上で数値目標も修正することといたしました。

中期事業計画「Innovation 2022」の内容につきましては、添付資料をご参照ください。

以 上

東証一部(TSE):6264

# 中期事業計画「Innovation 2021」 修正のお知らせ

2020年8月21日  
株式会社 マルマエ

進化する技術で未来を拓く

## 中期事業計画「Innovation2021」修正

### ✓ 計画期間の1年延長

→当初想定からSPE（半導体製造装置）市場環境変化

### ✓ 数値目標の変更

→SPEの現市場見通しに合わせ再計画

## 従来目標

### 中期事業計画 Innovation2021

数値目標

売上高80億円 営業益24億円

ROIC

資産ベースROIC 20%  
負債ベースROIC 15%

配当性向

配当性向 30%以上目標  
最低配当額 年間 10円※

※ただし最終損益が赤字となる場合は見直しを行う

従来戦略

✓戦略に変更は無く、進捗も順調

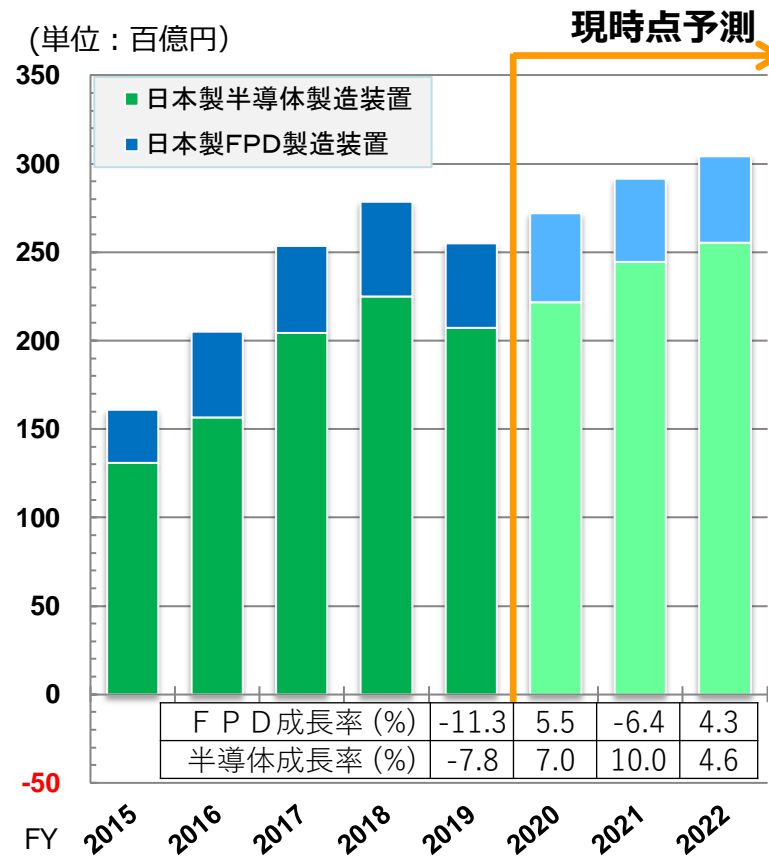
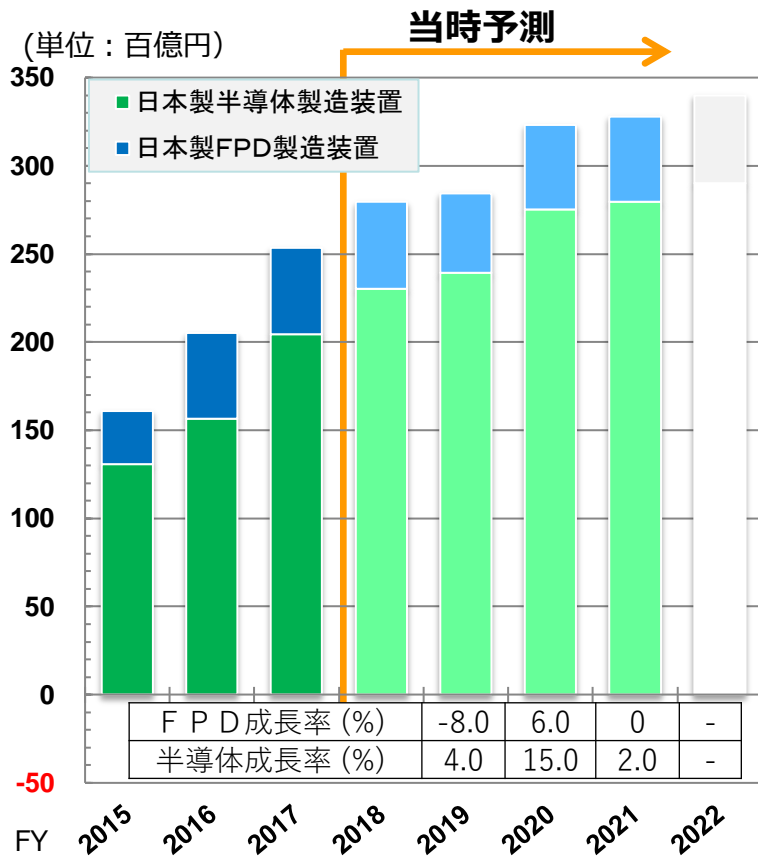
革新

新しい付加価値創造

分野	項目	内容
電子ビーム溶接 (EBW)	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 客先と共同で日本最大クラス大型電子ビーム溶接機 (EBW)設置 ※本件につきましては、顧客情報に関連し詳細の開示はできません</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 従来の半導体分野向けの小型EBWに加え、FPD分野向けの大型EBWの設置で新たにエッチング用チャンバーの受注開始</li><li>✓ EBWなど前後工程も受注</li></ul>
自動化	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 独自の自動化システムによる生産の自動化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 難易度の高い真空部品のハンドリングを自動化し、無人稼働推進</li></ul>
オープンイノベーション	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 表面処理・FSW・熱処理</li><li>✓ 組立等の部品関連技術</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 出水事業所をハブとして他社と協調し、半導体製造装置部品の一貫生産を進める</li></ul>

# 2.市場環境分析

## 市場環境（見通し）の変化



2019年度が当初予測に反しマイナス成長  
2021年度までの成長予想が縮小  
2022年度まで延長しても当初予想未達

結果

計画年度を2021年度から2022年度に変更  
最終年度の市場規模停滞  
目標達成には更なるシェア拡大必要

※薄い色のグラフは予測数値です

※本資料はSEAJ発表の数値を基に当社が予測したものです

## 2.市場環境分析

市場環境分析と営業方針 **✓市場見通しは若干停滞も各分野の方針に変更なし**

### 半導体分野

- ◆ 5G等でサーバー向け継続も新型コロナでスマホ向け停滞
- ◆ 米中間の問題に関連し一時的な停滞や仕向け先変化あり
- ◆ 生産力強化と試作能力増強でシェア拡大狙う

### FPD分野

- ◆ G10.5液晶鈍化しスマホ向け中小型OLEDも縮減
- ◆ 市場減速も多工程の取り込み狙う（コーデベ※⇒エッチング拡大）
- ◆ EBWと輸送を活かし前後工程までワンストップ受注の強化

### その他分野

- ◆ スマートフォン向けは停滞、太陽電池等新エネ狙う
- ◆ 新分野の市場開拓とリハビリ装置の事業化目指す
- ◆ EBWに続く新技術取得で新分野受注促進

※ コーデベとは、基盤に感光材の塗布と現像を行うコータ・デベロッパ工程を略した表記です

## 修正後数値目標

### 中期事業計画 Innovation2022

数値目標

売上高**70億円** 営業益**20億円**

ROIC

資産ベースROIC **18%**  
負債ベースROIC **14%**

配当性向

配当性向 **30%以上目標**  
最低配当額 年間 **10円**※

※ただし最終損益が赤字となる場合は見直しを行う

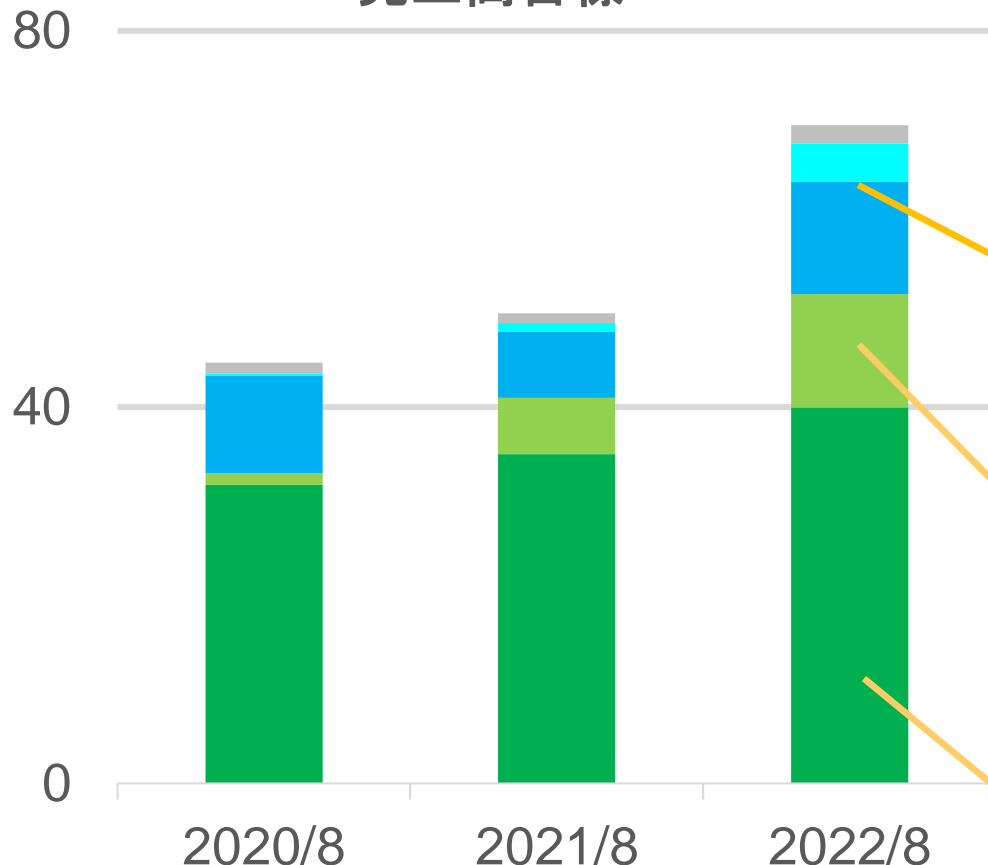


# 3.修正後中期事業計画「Innovation2022」

## 売上高拡大の具体的戦略

(単位：億円)

### 売上高目標



- 既存顧客(半導体)
- 新規顧客(半導体)
- 既存顧客(FPD)
- 新規顧客(FPD)
- その他

2021年度の売上高等はイメージです

### 市場成長予測

- ✓ WFE想定※ YoY '21年度22年度とも5%成長  
(P5は「日本製装置」のFYにおける成長率)
- ✓ FPD想定 '21年度-6.4% 22年度4.3%成長

#### ✓ FPD分野

'20年度10.8億から'22年度16億円へ  
市場環境は若干縮小予想  
EBW活用した新規顧客(獲得済)で4億円拡大  
同業他社撤退等によるシェア拡大で1.2億円拡大

#### ✓ 半導体分野(新規顧客)

'20年度1.2億から'22年度12億円へ  
新規顧客2社からの受注獲得想定  
既に2社獲得済みで、1社は'20年度量産開始済  
もう1社は試作品提供開始済  
→ '22年度 1社目8億円目標、2社目4億円目標  
・全顧客へ対応できる試作能力の拡大行う

#### ✓ 半導体分野(既存顧客)

目標'20年度から'22年度で約26%増加  
市場成長により10.3%  
既存顧客からの受注品種拡大で10.7%  
デバイスメーカー稼働向上による消耗品拡大5%  
・試作品受注拡大とEBW活かした受注拡大行う

※WFEとは半導体前工程製造装置です

# 3.修正後中期事業計画「Innovation2022」



目標達成への戦略 ～設備投資予想～

## 設備投資

## 自動化と生産方法の革新

年度	2020/8	2021/8	2022/8
設備投資額（予想） CFベース	4.7億円	10億円	11億円
減価償却（現見込） （製造原価）	515百万円	633百万円	697百万円

### 設備投資

- ✓ 2021年8月期は増産投資に10億円の予定（工場等1.5億他、一部R&D向け投資含む）
- ✓ 2022年8月期は増産投資中心
- ✓ 機械の減価償却は9年間定率
- ✓ 策定中のESG計画に基づき、自社使用目的の太陽電池パネル投資継続（2030年までに総額4.5億円、当初0.4億/年）

### 生産能力（機械能力のみ）

- ✓ 2020年8月期末  
半導体分野向け・・・4.5億円/月  
FPD分野向け・・・1.5億円/月
- ✓ 2022年8月期末  
半導体分野向け・・・5.5億円/月  
FPD分野向け・・・1.5億円/月

※生産能力は機械能力を単純合算した最大能力であり、通常は個別機械ごとに稼働率変動があり全体最大値に至ることは稀  
また能力拡大には人材の追加も必要

本資料に掲載された情報、及び、口頭によって説明された実現していない内容に関しては、ある一定の仮定の元に予想された見通しであり、マルマエ経営陣の判断など不確定要素を含んでおります。

本資料は、株主・投資家などの皆様にマルマエの現況と経営方針をご理解いただくために作成されたものであり、利用者に対して、当社株式の購入・売却など直接的な投資判断を提供するものではありません。投資に関する責任は負いません。

数値などの情報には注意をはらっておりますが、掲載の内容については未監査の数値も多く、確度を保証するものではありません。また、掲載された情報、またはその誤りについて、その理由に関わらず、当社は一切責任を負うものではありません。

本資料に関するお問合せ先  
株式会社マルマエ 管理本部総務課 IR担当

ir@marumae.com

TEL 0996-68-1140 FAX 0996-68-1151



# Company Profile

企業情報

当社製品は世界中で半導体・液晶製造装置の心臓部を支えています

## 主要工程

エッチング  
CVD  
コータ/デベロッパ  
スパッタ  
枚葉洗浄  
アッシング  
ウエハーボンディング  
イオン注入  
アニール

## 主要製品

真空チャンバー  
シャワーヘッド  
排気板  
静電チャック  
ヒーター類  
上部電極  
ターゲット  
搬送系パーツ類  
各種真空パーツ類

※画像はイメージです

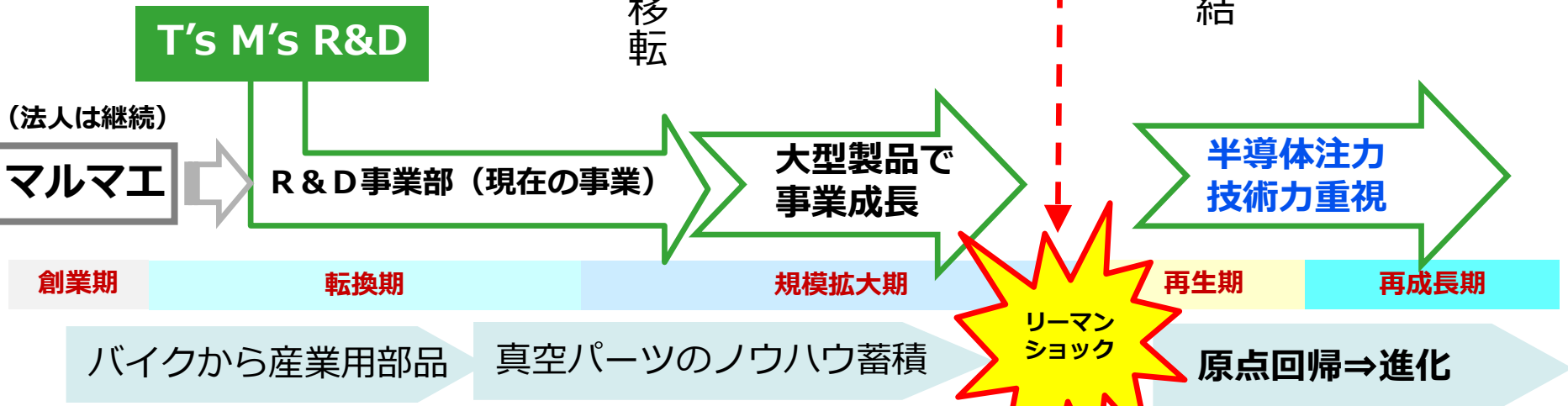
# 参考資料(会社概要)

会社名	株式会社マルマエ (Marumae Co., Ltd.)
設立	1988年10月
資本金	12億4,115万円 (2020年5月31日現在)
役員	代表取締役社長 前田 俊一 取締役 海崎 功太 取締役 (監査等委員) 兒島 吉二 取締役 安藤 博音 取締役 (監査等委員) 桃木野 聡 取締役 (監査等委員) 山本 隆章 取締役 (監査等委員) 宮川 博次
従業員数	238名 うち 臨時雇用者等 88名 (2020年5月31日現在) 他 派遣社員16名
所在地	出水事業所 〒899-0216 鹿児島県出水市大野原町2141番地 (本社) 高尾野事業所 〒899-0401 鹿児島県出水市高尾野町大久保3816番41 関東事業所 〒351-0014 埼玉県朝霞市膝折町2-17-15
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精密機械、精密機器の設計、製造、加工</li> <li>・精密機械部品の設計および製作</li> <li>・産業および医療機械器具の設計、製造、販売</li> <li>・ソフトウェアの開発、販売 ・製缶工事 ・配管工事</li> <li>・運送業務 ・不動産の賃貸</li> </ul>
経営理念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術は究極を目指し</li> <li>・競争と協調を尊び</li> <li>・技術注力企業として社会に貢献する</li> </ul> <p>経済を支える“モノづくり”の中で、モノづくりの源流である部品加工にこだわっていきます。そして、さまざまな分野で総合メーカーを支えられる企業となるために先端技術と供給力を持つ部品加工のリーディングカンパニーを目指します。</p>

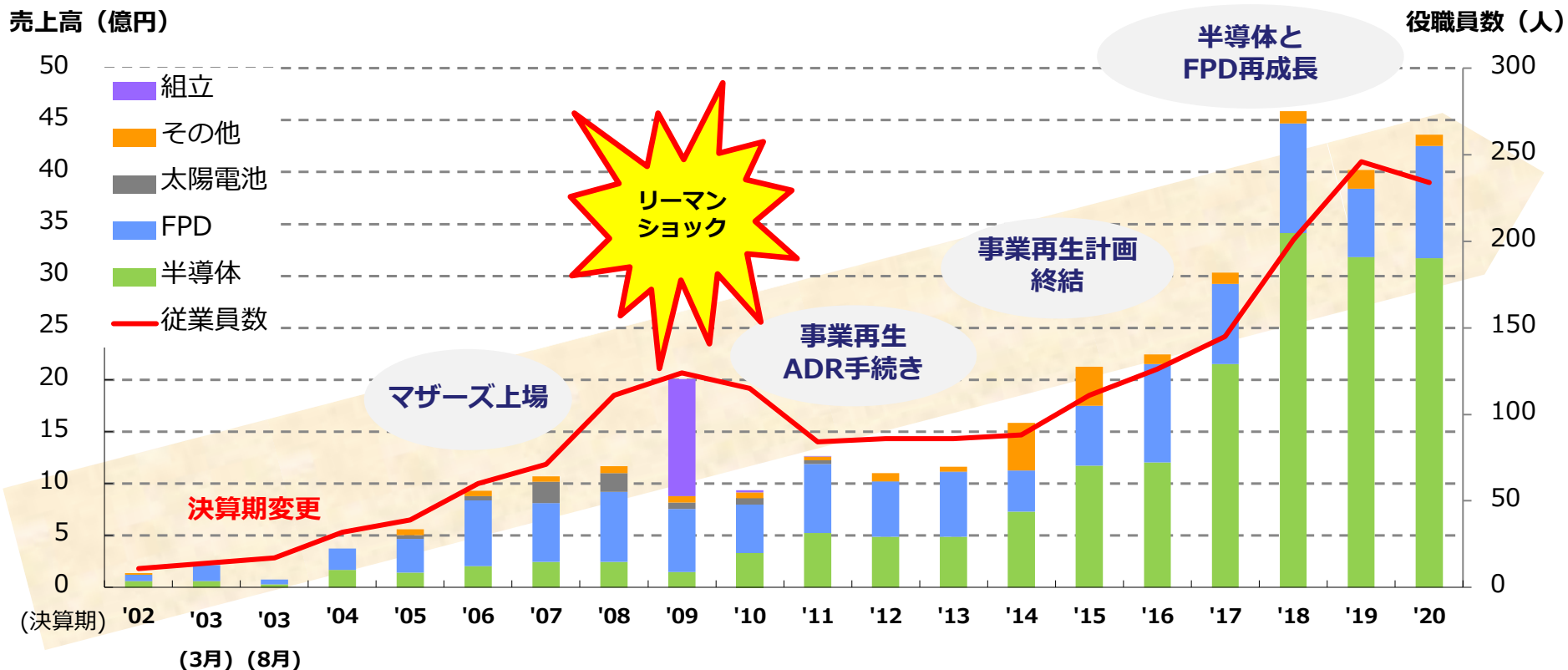
発行済株式総数	13,053,000株	
単元株式数	100株	
株主総数	7,483名	
大株主 (普通株式)	前田 俊一	4,818,100株
	J. P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMS RE CLIENT ASSETS-SEGR ACCT (常任代理人 シティバンク、エヌ・エイ東京支店)	504,400株
	前田 美佐子	504,000株
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	430,600株
	日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	375,700株
	前田 良子	180,000株
	五十嵐 光栄	168,000株
	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	164,100株
	川本 忠男	160,600株
	マルマエ共栄会	127,400株
(注) 自己株式が196株あります。 (2020年2月29日現在)		

'65 '88 '97 '00 '01 '03 '05 '06 '08 '09 '11 '15 '17 '18 '19

'65 マルマエ工業個人創業  
 '88 有限会社設立  
 '97 T's M's R&Dの合併  
 バイク部品製造  
 (当初はバイク部品を製造)  
 '00 半導体分野へ参入  
 '01 株式会社へ改組  
 '03 大型加工機導入  
 本社を高尾野工業団地へ移転  
 FPD分野参入  
 '05 グリーンシート銘柄指定  
 '06 東証マザーズに上場  
 '08 熊本事業所が稼働開始  
 関東事業所が稼働開始  
 '09 熊本事業所の閉鎖  
 事業再生ADR手続成立  
 '11 事業再生ADR手続の終結  
 出水事業所取得  
 '15 東証二部に上場  
 '17 東証一部指定  
 '18 本社を出水事業所へ移転  
 '19



## 事業成長と成長ドライバー



規模拡大時期

再構築

再成長

技術力醸成

設備大型化  
生産力拡大  
組立事業

FPD  
太陽電池

大型設備整理  
生産力再配分  
真空パーツ強化

半導体強化



私達は持続可能な経営を念頭に  
技術で社会貢献できる企業を目指します